

夜明け前の新十津川町議会

工藤 健 新十津川町議会議員

新十津川町は人口約六三〇〇人の農業を基幹産業とした風光明媚な田園地帯が広がる自治体なのですが、今年一月二六日付の北海道新聞に「新十津川町議選、現職7人不出馬か 複数欠員の恐れも」との記事が掲載され、町内に衝撃が走りました。私はこの報道がきっかけとなり、親戚や地域関係者と相談の上、町議会議員選挙に立候補することを決意し、四月の統一地方選で初当選させていただきました。

新十津川町議会は新人議員五名、女性議員は新人を含め五名の計一〇名で、男女半数であるほか、年代も三〇代三名、四〇代一名、五〇代二名、六〇代二名、七〇代一名、八〇代一名とバランスのよい構成となっています。幅広い年代であるが故に、各種勉強会では侃侃諤諤の議論となり、いつも時間がぎりぎりとなっている状況です。

個人的にも酪農学園大学名誉教授の押谷一先生とSDGs関係の意見交換をしたほか、議会技術研究会が主催した新人議員講座に参加するなど、自己研鑽に励んでいます。特に講座については、西内陽美副議長が北海道大学名誉教授で同研究会

顧問でもある神原勝先生の講演を何度も聴講していたこともあり、参加を勧めていただいたのですが、神原先生の話はもちろん、他の自治体議員とのワークショップから学んだことはとても多く、これからの議会や議員活動に生かしていきたいと考えているところです。

そして、新十津川町議会では小玉博崇議長と西内副議長の先導のもと、議会改革に取り組んでいます。議会基本条例の制定に向けては、栗山町や福島町、芽室町の条例を参考として勉強会を開催しています。また、議会モニター制度についても検討を進めており、一月二五日に専門家を招いてワークショップを開催しました。議会BCPや議会ICTについても動画による勉強会を開催しているほか、登別市や沼田町など先進自治体の視察研修を予定しています。

さらに、コロナ禍によって出来なかった町民との対話やコミュニケーションを補うべく、町民の役場や公民館に招いて議員と意見交換をする「かたるベサロン」、議員が各行政区会館に出向き、行政区の三役と町内会長を始めとする地域の代表

などと意見交換をする「くるま座ミーティング」を九月からの三か月間で一二回開催しました。参加人数は約一五〇人ですから、町民の四二人に一人の割合で参加していただいたこととなります。

こうした意見交換の中で必ず話題になるのが、行政区の役員のなり手不足と町内会・子ども会の未加入者の増加です。これまで年齢順に区長、副区長というように役員をお願いしてきましたが、高齢化や人口減少で役員交代もままならなくなり、五〇代の私も町内会長や交通安全指導員などを兼務する事態になっています。一方で人口が増えている中心部では、近隣市町村から移住してきた若い世帯は町内会や子ども会になじみがなく、加入する意義が感じられないなどの理由で未加入が多い状況です。これらの問題はどの自治体でもあり得ることではありますが、新十津川町においても行政区組織の再編成や共助への意識醸成が求められていると言えるのかもしれない。

これら住民から寄せられた声を行政に伝え、議会がワンチームとなってオルタナティブを提案できるようにするのが議会・議員の使命と考えています。今回、議会改革がスタートしたばかりの新十津川町議会にご配慮くださり、またこのような機会を設けていただいた議会技術研究会共同代表の西科様、公益社団法人北海道地方自治研究所の皆様にご感謝の意を表し、拙い寄稿を終えさせていただきます。

へくどう けん